

インテリム SMOと資本・業務提携、来年には米国進出も

CROのインテリム(大阪市)はこのほど、SMOのIBERICA(以下イベリカ、京都市)に資本参加するとともに、国内外での業務提携契約を締結した。日米に自社臨床薬理施設を持ち、薬物動態(PK)試験や安全性試験、生物学的同等性試験に定評のあるイベリカと協働することで、臨床第1相(P1)試験支援業務の強化や、その後のP2、P3試験、市販後調査まで含めたフルラインサービスの充実につなげる狙い。イベリカ側もインテリムとの提携で営業力を強化し、受託件数を拡大したい考えだ。

インテリムがSMOと業務提携するのは、2月のセーマ(福井市)に続き2例目。資本参加はイベリカが初となる。

イベリカはCRO、イベリカホールディングス(HD、福岡市)の関連会社。同HDは久留米大と連携して肝機能障害や腎機能低下などの疾患を持つボランティア患者のPK試験、安全性試験などを手掛けるほか、米国でも子会社のイベリカUSA(ニューヨーク州)を通じて臨床薬理試験中心の受託事業を展開している。

インテリムは、イベリカやイベリカHDのノウハウを活用することで、早期臨床試験でのエビデンスを迅速に確立できるグローバル体制を構築し、製薬企業の多様なニーズに対応していく構え。業務の主な役割分担は、インテリムがモニタリング、データマネジメント、統計解析業務などを、イベリカが治験実施施設支援業務などを手掛ける。

当面は国内の受託拡大に注力するが、インテリムは来年から、米国でサービスを開始することも検討中だ。海外展開について浮田哲州社長は、「アジア・パシフィックで治験がどんどん日本から離れていっているので、まずは米国での事業展開でそれを食い止め、将来的にはアジアでの治験受託も開始したい」と話している。